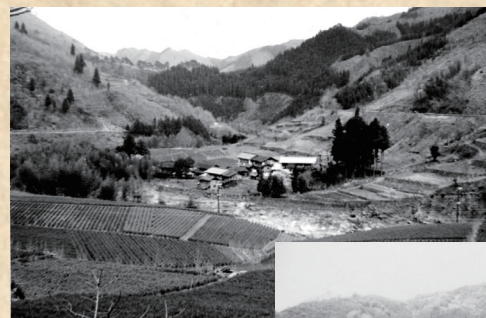


今は見ることのできない風景

昭和44年(1969)利根川支流の神流川上流に完成した下久保ダム。このダムの建設によりダム湖に沈んでしまった集落がありました(稲村・向平・柚木・矢納平ほか)。当時の写真が残っていることで水没地域に暮らしていた人々の生活を知ることができます。このようなことから古い写真の重要性を改めて感じさせられます。



稲村地区



曲渕地区



水没した柚木橋



向平地区

矢納平



今昔写真で見る町の移り変わり 神泉編

今私たちが日常で見ている風景も、やがては新たな風景へと生まれ変わっていきます。日々の変化を記録し、後世へ伝えていく手段として「写真」があります。写真は地域の歴史や暮らしを知るうえでとても貴重な資料であり、撮影された時代を生きた人々にとっては、懐かしい人や風景を思い起こさせる大切な宝物ともなります。

今月号の特集は、神泉地区内で撮影された写真から町の移り変わりを見ていきます。

まず初めに表紙を見てみましょう。手に持っている写真には神泉村役場が写っています。神泉村役場は阿久原小学校が現在の神泉小学校の場所へ移転した後に、校舎を神泉村役場として使用し始めました。写真の撮影された詳しい時期は分かりません。神泉村が昭和29年(1954)に誕生し、令和5年3月まで支所として使用していた建物が昭和46年(1971)に建設されたことから、撮影時期は昭和30年代と考えられます。

そして背景となっている建物は、令和5年4月に開庁した神泉総合支所です。以前の支所の場所から多目的交流施設(旧神泉中学校)の敷地内に移転してきました。

登仙橋

登仙橋は、県道太田部鬼石線の群馬県境の神流川に架かる橋です。矢納地区は峠を越えた秩父方面からの物資搬入は困難なため、鬼石方面から神流川を越えて生活品の搬入を行ってきました。登仙橋ができる以前は土橋や板橋を架けていましたが、大雨や洪水の度に流失していました。明治14年(1881)に木橋が完成し、その後老朽化や自動車の通行に適していないため何度か架け替えが行われた後、昭和39年(1964)に現在の姿となりました。「登仙橋」と呼ばれるようになったのは昭和9年(1934)に架け替えた時だと言われています。それ以前は「手築橋」と呼ばれていたようです。



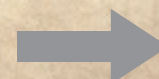
昭和28年(1953)

約15年後



昭和39年以降

約56年後



令和6年(2024)

問合せ

生涯学習課文化財担当
☎ 0274-52-2586
FAX 0274-52-2586
月曜～金曜日(土日祝日を除く)